

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300500		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(1階)		
所在地	大分県由布市挾間町古野269番地1		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは医療法人が運営しており、併設または隣接して有床診療所、介護老人保健施設が設けられています。そのため、とりわけ医療面において密度の濃いサービス提供が可能であり、利用者やご家族には安心して利用できるというメリットも有しています。また、緑多い閑静な環境の中にあり、比較的交通の便もよくご家族様にも好評をいただいています。職員は利用者様と常にふれあい、利用者様にとって笑顔があふれる環境にあり、雰囲気作りを心がけ、日々、よりよいホーム作りを目指し、邁進しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・開設10年を経て、身体面や病状の重度化した利用者の日常支援が、生活・医療の両面で、職員や他職種の協力体制のもと行われている。  
 ・地域への積極的な働きかけにより、交流や相互扶助に取り組み、事業所運営に活かしている。  
 ・事業所の敷地内の老人保健施設や医療機関との効果的な関係や取り組みを、利用者支援に活かしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念は玄関のわかりやすい場所に掲示し、定期的に研修や職員会議等で共有を図っている。また、利用者が地元の老人会へ加入し、行事への参加など実践に向けた取組みを行っている。</p>	<p>地域の中での利用者支援が表現された理念を、実践に繋げるように努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>老人会、地域の祭り(やせうまつり)、保育園の運動会見学、小学生の訪問など、可能な範囲で地域との交流に勤めている。</p>	<p>地域交流の定着を視野に入れ、地域の小学校や老人会などに積極的な働き掛けを行っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし地域の高齢者の暮らしについて情報収集を行い、その内容を検討し、可能なものは還元、実施している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者、家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治区長、民生児童委員、管理者、事務長、計画作成担当者で定期的に開催し、意見等については、グループホーム内の会議で検討、見直しする等サービスの向上に繋げている。</p>	<p>運営推進会議は系列のグループホームと合同で行い、利用者も参加している。利用者家族には輪番制で出席してもらっており、事業所の報告や取組みを報告している。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市担当者と電話や直接出向くなどして事業運営に関するアドバイスを受けるなどの連携をとっている。</p>	<p>法人事務が窓口となり、市担当者と連絡・報告・相談を日常的に行っている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束を行う必要がなく行っていない。可能な限り自由に安全に安心して生活が送れるように日々考え努めている。</p>	<p>外出が可能な利用者には、マンツーマンで自由に屋外の散歩の見守りを行い、身体機能の重度化で自由な行動の取れない利用者には、適度な座位時間でのリスクに配慮した座位保持を行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待だけでなく言葉による虐待・精神的虐待も見過ごされてはいけない問題であり、全職員への指導はもとより、内部での研修議題として取り上げている。</p>		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、制度を利用されている利用者様はいないが、内部研修により認識を深め、必要な場合にはいつでも支援できる体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時相談から契約時まで丁寧な説明を行い、個々の立場にたって分かり易く説明し、利用者様・ご家族様の納得、合意のもとに契約を結ばせて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱だけでなく、ご家族様の面会時には積極的に声をかけさせていただき意見、要望、不満、苦情等、気軽に引き出せるよう勤め、伺った意見等については職員で話し合い改善に努めている。	事業所行事に合わせ、年3回の家族の集う時間を設け、利用者の半数の家族参加がある。事業所運営に活かす目的で、毎年家族アンケートを取っている。	アンケートで寄せられた意見や要望を職員全体で検討し、家族や利用者フィールドバックすることで、アンケートが事業所運営に効果的に活かされることを期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議及びミーティング等を開催している。全職員が「報告」「連絡」「相談」し合える関係作りを心がけている。	職員間でのコミュニケーションが取れており、協力・支援の関係作りに努められ、事業所運営に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性について話し合っている。また、職員それぞれの適性を生かした役割分担を得意な分野を伸ばしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やグループホーム内での研修やテーマに沿った勉強会を毎月開催し、外部研修へも可能な限り参加してその内容については会議で報告して全職員への周知を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと相互訪問、定期的な会合を行い情報の交換等、交流を行っている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得よう努力している。入居時の相談時間はなるべく多くとり、不安内容の明確化を図れるように勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、環境に慣れるまで利用者様からホームでの生活希望や不安を十分に聞き、安心し納得していただけるよう対応している。また日頃から声かけをし、生活の中で不安が生じた場合も利用者様と一緒に考え、対応に勤めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安、悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービス内容等についても相談し説明をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で家事等に一緒に取り組み可能な限り残存機能に考慮し利用者様と職員が共に支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いている。また行事等をお知らせし、共に楽しんでいただけるように配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご友人、知人等の訪問について配慮すると共に、手紙や電話で連絡が取れるように努めている。	趣味や要望のある利用者には、関わりのある人に連絡を取り、関係継続の支援を行われている。併設デイケア利用から入居に至った利用者は、デイケアの場や利用者との自由な行き来ができ、馴染みの場や人との継続支援に繋がっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心を許せる関係が築かれ共に支えあい助け合える関係作りがなされるよう援助させていただいている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう、また相談事が生じた際には、いつでも気軽に連絡していただきたいとお伝えすることになっている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人データ記録に利用者様個々の生活歴、職業、趣味等の記録を行い、サービスに活用できるよう全職員で共有している。	今年度、新たなアセスメント様式(暮らし情報ノート)に取り組んでおり、家族が項目ごとに記入することで、利用者の思いや意向の再認識に繋がっている。職員間の情報の共有も行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より生活歴や生活環境等をお聞きし情報収集に努め、その人に合った生活が送れるように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況を把握し、有する力を発揮できるよう、出番や役割を見出し残存機能低下の防止及び日々の活力向上に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画担当職員、グループホーム職員、併設病院の看護師等、専門職員で利用者や面会時に聞きとった家族の意向を踏まえ介護計画の作成を行っている。	利用者の状況に応じた介護計画を作成しており、医療課題のある利用者の計画には、積極的に医師や看護師の支援・協力の体制を組み込んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録にその日の利用者様の様子について記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族訪問、墓参り、通院の付き添いなど、本人や家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>消防や警察との協力を大切にしている。また、新聞販売店が協力的に支援している。</p>	/	
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には併設医院をかかりつけ医としているが、本人や家族の希望によって従来の病院にするなどの対応を行っている。また、専門の医療機関と連携し、必要に応じて通院介助を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医は併設医院となっており、毎朝、院長の訪問があり、利用者や家族・職員の安心に繋がっている。他科受診は家族対応が基本となっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>当ホームは医療法人で運営されているため、診療所の看護師が常に健康管理に努め、毎日利用者個々の心身状況を報告し情報を共有し合っている。</p>	/	
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>連携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり迅速な対応が可能である。入院先の医療機関の主治医と連絡を密にとり、早期退院を支援している。</p>	/	
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様の重度化や終末期を迎える際に、何度も医師やご家族様と話し合い、ホームで出来ること出来ないことを見極め利用者様にとってなにか最も安心、安楽かを検討し、チームとして支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した利用者も多く、家族や職員、併設医療機関の医師や看護職員との連携により事業所全体で支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の備えとしてマニュアルを備え、随時対応できるように努めている。また、勉強会においてけんどうしている。</p>	/	
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、避難訓練を実施し、自治区とも防災協定書を交わし、災害時に速やかに非難できる体制を整えている。また、非常時の備蓄は外部契約により対応している。</p>	<p>年2回の定期的な避難訓練が行われている。事業所と地域で災害時の相互扶助の取り決めを行い、書面化しており、協力体制が整っている。</p>	<p>避難訓練は、主に職員が行っており、2階に居室のある利用者は屋外避難の実践が行われていない。災害時、個々の利用者の誘導・搬送の際、慌てずに行動が出来るよう、より実情に応じた訓練を期待したい。</p>

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが常に利用者様のケアに対し尊重した対応が行えるよう、お互いに注意し合い、法人内での勉強会で研修している	地域の中で、長く生活をしてきた利用者の、個々のプライドを尊重し、男女の性差にも配慮を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせできるだけ本人の意思を尊重し、職員はさりげなく助言することにより、利用者様の考えを導き出し納得して生活を送れる様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起床が遅い方には朝食を温め直して提供する等、生活のリズムが保てる範囲内で、できる限りその人らしい暮らしができる様な支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様、利用者様の希望により、ご家族様と一緒に行き慣れた店に行くこともある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の一部は併設施設の厨房で行っているが汁物等、可能な範囲内で利用者様と調理し配膳、後片付けなどを行い、職員も同じメニューを利用者様と一緒に楽しみながら食事を行っている。	併設施設の栄養士により栄養管理された食事を提供している。利用者の身体状況に合わせ、部屋食や食事時間に合わせて離床計画をするなどの取り組みを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成し、職員は一日の摂取カロリーや水分量を把握しており必要に応じてチェック表で摂取量の管理をするなど、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら口腔ケアの支援を行い、義歯の手入れも合わせて行っている。		

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを知り、定期的・適切な排泄の誘導や、さりげなく援助にあたりトイレでの自然な排泄が行えるよう可能な限り支援している。	リハビリパンツやオムツの利用者も、交換時に汚染がない場合や排便誘導時には、トイレやポータブルトイレでの排泄を試みるように努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり、排泄チェック表で確認を行うと共に、個々に合わせ体操等、身体を動かす働きかけを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の身体状況に合わせて可能な限り入浴への取組みを行っている。適度に入浴への誘いを行い、希望があれば都度の入浴が行えるように支援し、状況的に入浴が困難な利用者様には身体清拭を行っている。	事業所では、ユニットバスでの入浴となっているため、身体機能が低下している利用者は、併設の老人保健施設の機械浴を利用している。入浴困難な利用者には、清拭による保清を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の身体状況に応じて適宜休息を取り入れながらも、昼夜逆転を防ぎ夜間に安眠されるよう日中は居間で過ごされるように誘いかけしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服薬情報を周知しており、服薬の際にはチェック表に記入している。また、内服薬に関し主治医、担当看護師とも情報を共有する等連携も密に行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、後片付け、掃除、洗濯たたみ、雑巾縫い等利用者様の有する残存機能を活かし生活歴を活かした生活が送られるよう支援し、利用者個々が楽しみが持てる生活が過ごせるよう援助している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様個々の心身状況に応じ希望に沿った支援が行えるように心がけ、個人的な外出の希望にはご家族様の協力を連絡したり等、しえんしている。また、日常的に散歩や定期的に行事への取組みも行っている。	馴染みの美容院や定期的実家に帰宅するなどの外出の際は、家族の協力を得ながら外出支援を行っている。心身の状況により屋外への外出が困難な利用者には、日の当たる共有空間で外気を感じることが出来るよう取り組んでいる。	

事業者名: グループホーム川崎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理簿を作成し、入金時は記録している。また、買い物に出かけたいときには職員が見守り、支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご自分で電話をかけることが可能な方には自由に電話を使用していただき、ご家族や知人と連絡をとられている。また、必要に応じて手紙、ハガキを用意しやり取りを支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自然な光が差し込み、季節の花や利用者様による手作りの飾りなどで温かみのある落ち着いた共有空間作りを心がけている。</p>	<p>共有空間は、不快な臭気もなく、適宜、換気が行われている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースには椅子、テーブル等を設置し過ごしやすいようにしている。また、ソファ等を置いて自由に過ごしていただいている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはご利用者が自宅で使用されていた家具等を自由に持参していただき、住みなれた生活空間作りへ配慮している。</p>	<p>利用開始時には、馴染みの備品を用意するよう働き掛けている。重度化により、医療処置の必要な利用者の居室には、医療機材を設置して対応している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーは元より、要所には手すりが設置されており、安全に生活が送られるようにしている。利用者様個々の、自立した生活が送られるよう、職員も必要な援助を行っている</p>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300500		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(2階)		
所在地	大分県由布市挾間町古野269番地1		
自己評価作成日	平成23年2月15日	評価結果市町村受理日	平成23年4月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは医療法人が運営しており、併設または隣接して有床診療所、介護老人保健施設が設けられています。そのため、とりわけ医療面において密度の濃いサービス提供が可能であり、利用者やご家族には安心して利用できるというメリットも有しています。また、緑多い閑静な環境の中にあり、比較的交通の便もよくご家族様にも好評をいただいています。職員は利用者様と常にふれあい、利用者様にとって笑顔があふれる環境にあり、雰囲気作りを心がけ、日々、よりよいホーム作りを目指し、邁進しているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関のわかりやすい場所に掲示し、定期的に研修や職員会議等で共有を図っている。また、利用者が地元の老人会へ加入し、行事への参加など実践に向けた取組みを行っている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、地域の祭り(やせうま祭り)、保育園の運動会見学、小学生の訪問など、可能な範囲で地域との交流に勤めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし地域の高齢者の暮らしについて情報収集を行い、その内容を検討し、可能なものは還元、実施している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市職員、地域包括支援センター職員、自治区長、民生児童委員、管理者、事務長、計画作成担当等で定期的に開催し、意見等については、グループホーム内の会議で検討、見直しする等サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは電話や直接出向くなどして事業運営に関するアドバイスを受けるなどの連携をとっている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う必要がなく行っていない。可能な限り自由に安全に安心して生活が送れるように日々考え努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく言葉による虐待・精神的虐待も見逃されたいいけない問題であり、全職員への指導はもとより、内部での研修議題として取り上げている。		

事業者名: グループホーム川崎 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ、制度を利用されている利用者様はいないが、内部研修により認識を深め、必要な場合にはいつでも支援できる体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時相談から契約時まで丁寧な説明を行い、個々の立場にたって分かり易く説明し、利用者様・ご家族様の納得、合意のもとに契約を結ばせて頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱だけではなく、ご家族様の面会時には積極的に声をかけさせていただき意見、要望、不満、苦情等、気軽に引き出せるよう勤め、伺った意見等については職員で話し合い改善に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議及びミーティング等を開催している。全職員が「報告」「連絡」「相談」し合える関係作りを心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性について話し合っている。また、職員それぞれの適性を生かした役割分担をし得意な分野を伸ばしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やグループホーム内での研修やテーマに沿った勉強会を毎月開催し、外部研修へも可能な限り参加してその内容については会議で報告して全職員への周知を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと相互訪問、定期的な会合を行い情報の交換等、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得るよう努力している。入居時の相談時間はなるべく多くとり、不安内容の明確化を図れるように勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、環境に慣れるまで利用者様からホームでの生活希望や不安を十分に聞き、安心し納得していただけるよう対応している。また日頃から声かけをし、生活の中で不安が生じた場合も利用者様と一緒に考え、対応に勤めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安、悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービス内容等についても相談し説明をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で家事等に一緒に取り組み可能な限り残存機能に考慮し利用者様と職員が共に支え合う関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いている。また行事等をお知らせし、共に楽しんでいただけるように配慮している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご友人、知人等の訪問について配慮すると共に、手紙や電話で連絡が取れるように努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心を許せる関係が築かれ共に支えあい助け合える関係作りがなされるよう援助させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう、また相談事が生じた際には、いつでも気軽に連絡していただきたいとお伝えすることになっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人データ記録に利用者様個々の生活歴、職業、趣味等の記録を行い、サービスに活用できるよう全職員で共有している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より生活歴や生活環境等をお聞きし情報収集に努め、その人に合った生活が送れるように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況を把握し、有する力を発揮できるよう、出番や役割を見出し残存機能低下の防止及び日々の活力向上に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画担当職員、グループホーム職員、併設病院の看護師等、専門職員で利用者や面会時に聞きとった家族の意向を踏まえ介護計画の作成を行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録にその日の利用者様の様子について記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族訪問、墓参り、通院の付き添いなど、本人や家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		

事業者名: グループホーム川崎 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や警察との協力を大切にしている。また、新聞販売店が協力的に支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設医院をかかりつけ医としているが、本人や家族の希望によって従来の病院にするなどの対応を行っている。また、専門の医療機関と連携し、必要に応じて通院介助を行うなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは医療法人で運営されているため、診療所の看護師が常に健康管理に努め、毎日利用者個々の心身状況を報告し情報を共有している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関との連絡は当法人が診療所を運営していることもあり迅速な対応が可能である。入院先の医療機関の主治医と連絡を密にとり、早期退院を支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の重度化や終末期を迎える際に、何度も医師やご家族様と話し合い、ホームで出来ないことを見極め利用者様にとってのが最も安心、安楽かを検討し、チームとして支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えとしてマニュアルを備え、随時対応できるように努めている。また、勉強会においてけんとうしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、自治区とも防災協定書を交わし、災害時に速やかに非難できる体制を整えている。また、非常時の備蓄は外部契約により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが常に利用者様のケアに対し尊重した対応が行えるよう、お互いに注意し合い、法人内での勉強会で研修している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせできる限り本人の意思を尊重し、職員はさりげなく助言することにより、利用者様の考えを導き出し納得して生活を送れる様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、起床が遅い方には朝食を温め直して提供する等、生活のリズムが保てる範囲内で、できる限りその人らしい暮らしができる様な支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様、利用者様の希望により、ご家族様と一緒に行き慣れた店に行くこともある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の一部は併設施設の厨房で行っているが汁物等、可能な範囲内で利用者様と調理し配膳、後片付けなどを行い、職員も同じメニューを利用者様と一緒に楽しみながら食事を行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士が献立を作成し、職員は一日の摂取カロリーや水分量を把握しており必要に応じてチェック表で摂取量の管理をするなど、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら口腔ケアの支援を行い、義歯の手入れも合わせて行っている。		

事業者名: グループホーム川崎 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々の排泄パターンを知り、定期的・適切な排泄の誘導や、さりげなく援助にあたりトイレでの自然な排泄が行えるよう可能な限り支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとり、排泄チェック表で確認を行うと共に、個々に合わせ体操等、身体を動かす働きかけを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の身体状況に合わせて可能な限り入浴への取組みを行っている。適度に入浴への誘いを行い、希望があれば都度の入浴が行えるよう支援し、状況的に入浴が困難な利用者様には身体清拭を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の身体状況に応じて適宜休息を取り入れながらも、昼夜逆転を防ぎ夜間に安眠されるよう日中は居間で過ごされるように誘いかけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の服薬情報を周知しており、服薬の際にはチェック表に記入している。また、内服薬に関し主治医、担当看護師とも情報を共有する等連携も密に行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、後片付け、掃除、洗濯たたみ、雑巾縫い等利用者様の有する残存機能を活かし生活歴を活かした生活が送られるよう支援し、利用者個々が楽しみが持てる生活が過ごせるよう援助している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様個々の心身状況に応じ希望に沿った支援が行えるように心がけ、個人的な外出の希望にはご家族様の協力を連絡したり等、しえんしている。また、日常的に散歩や定期的に行事への取組みも行っている。		

事業者名: グループホーム川崎 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物に出かけたいときには職員が見守り、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話をかけることが可能な方には自由に電話を使用していただき、ご家族や知人と連絡をとられている。また、必要に応じて手紙、ハガキを用意しやり取りを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な光が差し込み、季節の花や利用者様による手作りの飾りなどで温かみのある落ち着いた共有空間作りを心がけている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子、テーブル等を設置し過ごしやすいようにしている。また、ソファ等を置いて自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用様が自宅で使用されていた家具等を自由に持参していただき、住みなれた生活空間作りへ配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは元より、要所には手すりが設置されており、安全に生活が送られるようにしている。利用者様個々の、自立した生活が送られるよう、職員も必要な援助を行っている		